

令和4年度 調布市立第二小学校 学校評価報告書（学校長 安藤 力也）

学校の教育目標	
「かがやけ二小の子」 ○かかんがえる子 ◎がんばる子（重点） ○やさしい子 ○けんこうな子	
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像	
<p>☆全教育活動におけるキーワード</p> <p>「自他尊重」: ⇒自分の「よさ」に気付き, 自分を大切にする ⇒周りの人の「よさ」や違いを認め合い, 大切に思う</p> <p>☆目指す学校像「子ども一人一人を大切にできる学校」</p> <p>1: 個性が尊重され, 一人一人が大切にされる学校 2: 楽しく学び, 確かな学力が身に付く学校 3: 健康と安全を大切にできる学校 4: 教職員が専門性を高め合い, 共に学び合う学校 5: 保護者・地域等と共に歩む学校</p>	

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>

	1 豊かな心(徳)		2 確かな学力(知)		3 健やかな体(体)	
	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価
自己評価	①学校経営方針の柱として「自他尊重の精神の涵養」を位置付け, 校長自ら全教育活動を通じて, 自分や他者を大切にすることに関連して, 教員, 地域・保護者, 児童に発信し続ける。	B	①各教科・領域等においては, 「何のために学ぶのか」という学習の意義を児童と共有しながら, 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る。また, 校内研究と関連付け, 他者と関わり合いながら, 主体的・協働的に学ぶ児童の育成をめざして研鑽を深める。	B	①校内研究と関連付けて, 日々の体育授業や体育的活動の充実を図ると共に, 児童の運動の日常化を目指した取組の充実を図り, 体力向上を目指す。マラソン, 水泳, なわとび, 鉄棒等の体育学習で活用するカードの充実を図り, 休み時間や家庭でも日常的に運動に親しめるように学校・学年だより等を通じて家庭に啓発する。	B
	②「二小スタンダード」・「二小の約束」に基づき全教職員が同じ視点で, 学習規律・生活規律のある指導にあたる。特に「あいさつ」の励行については生活指導上の重点目標として位置づける。	B	② 思考場面を大切にし, 自分の考えを明確にもたせて, 感染防止対策を講じながらペアや小グループ及び全体での話し合い活動を段階的に取り入れ, 自分の考えを分かりやすく伝えたり, 友達の考えと比較したりする対話的な学習を推進する。	B	②校庭の芝生を有効活用した運動や体力テストの結果を踏まえた運動教具の開発や環境整備を推進したり, 休み時間の校庭や体育館使用方法を工夫したりすることで, 運動に親しむ機会の創出を図り, 体力の向上につなげる。	C
	③異学年交流「たてわり班活動」通年実施することで, 発達段階の違いなど, 多様な個性を認め寛容に関わり合う気持ちの育成や互いに思いやる心・学び合う心の育成を図る。	A	③習熟度別指導や講師による指導を活用し, 学習の基盤となる資質・能力を明確にし, 知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の向上を目指す。また, 高学年においては, 児童の学習状況や学習内容等に応じて教科担任制を一部導入し学習指導の充実を図る。	C	③調布市教育委員会の方針の下, 新型コロナウイルス感染状況を踏まえながら, 児童の安全を最優先に考え, 学校行事を中心とした教育課程の見直しを図るとともに, 児童が安心して学校生活を送ることができるような保健・衛生面, 生活の仕方について検討し, 児童の指導に生かす。また, 保健指導を定期的に行い, 健康に対する理解を深め, 健康的な生活習慣を身に付けさせる。	B
	④人権尊重の精神を基盤とし, 児童, 教師, 保護者, 地域が一体となっていじめや体罰を許さない学校風土を醸成する。自分の「よさ」や他者の「よさ」, 互いの違いを認め合い, 自分も他の人も大切にできる児童の育成を図る人権教育を推進する。	B	④児童1人1台タブレット端末をはじめとするICT機器を効果的に活用した授業を積極的に行い, グローバルな人材育成を目指し, 児童の思考力・表現力, 情報活用能力を伸ばす授業の推進を図る。	B	④食に関する教育計画を基に食に関する指導の充実を図る。また, 給食配食前, 配食時には毎日, 管理職, 学級担任, 栄養士, 調理師による除去食等の複数点検を行い, 食物アレルギー事故ゼロを維持する。併せて喫食を伴う教育活動実施の際のチェックリストや保護者向け配布文書の活用を徹底することで校内におけるアレルギー事故防止に努める。	A
	(2) 成果(数値目標に対して)	評価	(2) 成果(数値目標に対して)	評価	(2) 成果(数値目標に対して)	評価
	①学校評価アンケートでは, 「豊かな心の育成」に関する項目では保護者 A+B 回答: 94%, 「思いやりの心」「勤労奉仕」の項目で児童 A+B 回答: 90%を上回った。本校の特色ある教育活動の一つである異学年交流「たてわり班活動」が思いやりの心を伝統的に育てる取組として, 児童の姿にもその成果が表れていることから, 今後も大切にしていきたい。ふれあい月間には「あいさつの励行」「いじめの防止」「安心安全な学校生活」等をテーマにした標語やポスター作りなどの児童の主体的な取組が充実した。今後も継続していく。	A	①学校評価アンケート「学習理解」では保護者 A+B 回答が92%, 「学習理解」・「話を聞く」: 児童 A+B 回答: 90%以上の回答となっていることに比較し, 「考えを伝え合う」: 児童 A+B 回答: 78%となった。今後も, 言語活動の充実を図り, 子どもたち同士が学び合う授業づくり(対話的な学び・協働的な学び)を推進するとともに, 児童が主体的に学び合いながら, 楽しく, よくわかる授業となるよう, 授業改善に向けて研鑽を深めていく。	B	①学校評価アンケート「体力向上」に関する保護者 A+B 回答: 90%, 児童 A+B 回答: 86%であった。本校では昨年度から2年間にわたり「自分も友達も大切に, 主体的・協働的な学びを実現していく体育学習」を研究主題に据え校内研究を進めてきた。研究を通して, 児童が運動の特性に触れる楽しさや喜びを味わう姿が見られ, その成果が少しずつ表れてきている。今後も, 本校の特色である校庭芝生を有効に活かしながら, 児童が主体的に運動に取り組むように工夫していく。	B
	②学校評価アンケートでは, 「あいさつの励行」に関する保護者回答 A+B: 94%に比較して児童回答 A+B: 87%とやや低い数値と	B	②全国学力調査では, 全ての教科における正答率は都平均値を上回った。一方で, 学校評価アンケート「個に応じた指導の工夫」保	C	②給食配食前, 配食時には毎日, 管理職, 学級担任, 栄養士による除去食等の複数点検を行うとともに, 喫食を伴う教育活	A

	<p>なった。子どもたちの自己評価結果を前向きにとらえ、今後もあいさつの励行については重点的に取り組み、肯定的評価90%以上をめざす。</p>	<p>護者 A+B 回答：83%、E 回答：12%となった。算数科を中心に、ティーム・ティーチングでの指導や習熟度別グループによる指導を行い、習熟度に応じた補足的・発展的な学習や習熟度確認テストも毎学期行い、学習習得状況を確認しながら進めているが、今後も各教科・領域における個に応じた指導の充実を図っていく。</p>	<p>動も含め、食物アレルギー事故ゼロを維持することができた。また、学校評価アンケート「健康教育」保護者 A+B 回答：95%であった。引き続き、感染防止に向けた取組や保健指導や食育の充実を図りながら、子どもたちが安心・安全に生活できるよう健康づくり・健康教育に努力していく。</p>
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつは児童にしっかり定着しており、いつも気持ちの良いあいさつをしてくれている。</li> <li>・「たてわり班活動」では学級・学年を越えて児童が交流でき、各々が立場を踏まえた言動や相手への思いやりの心を身に付けることにつながり、この活動が二小にしっかり定着している印象を受ける。今後も互いに尊重し合う心情を育てる機会として継続していただきたい。</li> <li>・「学校が楽しい」と感じている児童が多いことは、自分も他者も大切にされているという実感に基づくものであり、これからも二小の温かな雰囲気を持ち続けていただければと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童により、理解度など個人差があり、より丁寧な指導が必要場面も少なくないと思う。担任だけでは対応に限界があるため、ティームティーチングにより、きめ細やかに見ていくことが大切である。学習理解が深まることで、自己肯定感の育ちにもつながると考えられるため、今後も力を入れてほしい。</li> <li>・自分の考えを他者に理解されるように伝えたり、他者の意見も耳を傾けながら答えを見出したりしていくプロセスが大切であると思う。このことは、時間を要することではあるが、時間を惜しまず取り組むべきだと思う。また、児童が自分の考えを安心して伝えられる場面、例えば、正解を導き出す話し合いではなく、それぞれの考えを安心して発表できる場面が増えるとよい。</li> <li>・各種学力調査等を実施については児童が目的や目標を理解した上で実施できることが大切であると思う。</li> <li>・習熟度別指導や講師による指導は引き続き行っていただきたい。塾など外部でも学習する児童が増えている昨今、学校の学習だけでは間に合わないと言われることのないように、児童一人一人の個性に寄り添った授業を充実させていただきたい。</li> <li>・「グローバルな人材育成」とは具体的にどのような人材であり、その育成のために、どのような目標をたて、実践してきたのかを明確にする必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マラソン、水泳など具体的なスポーツだけにとられず、体を使った遊びを通じた体力向上に目を向けるべきだと思う。また、学校生活だけでは補いきれないことも多いため、放課後の過ごし方についてもより一層啓蒙が必要と考える。</li> <li>・近隣に遊び場がほとんどなく、放課後自由に遊べる環境が極めて少ない中で、学校は児童の体力向上を図る様々な取り組みをしてくれていると感じる。今後も学校での取組を発信しつつ、家庭でも運動に親しめるよう保護者とも連携しながら進めていってほしいと願う。</li> <li>・アレルギー事故防止に向けては、引き続き、先生方だけでなく、職員、児童・保護者、全員で理解し、事故のないよう対応していただきたい。</li> </ul>

**学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>**

4 安全・安心な学校づくりの推進		5 特別支援教育の推進		6 保護者・地域との連携	
(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価
①毎週1回、生活保健夕会を開催し、共通理解を図るとともに、週ごとに適時性のある安全指導を行えるようにする。毎月の安全点検と合わせ安全指導を毎月実施する。	A	①就学支援シート、個別指導計画、個別支援計画の効果的活用を図り、校内委員会を基軸として校内通級教室、都・市SC、保護者、外部機関と連携を深め、一人ひとりのニーズに応じた支援を行う。	B	①「調布の野草を育てよう」をはじめ、地域人材や地域の教育材を生かした第二小ならではの教育活動を推進する。地域学校協働本部が中心となり、既存の取組を大切にしながら、地域住民、保護者の協体制を再整備するとともに地域防災力の向上を図る。	C
②全職員が学校生活及び施設設備における安全確保と危険回避に向けた改善意識を常に高くもち、役割分担を明確にしながら児童の安全を守る。休み時間等教員が児童と共に遊びに参加し、児童の安全確保に努める。	B	②週3回行われる職員打ち合わせを活用し、全教職員が情報共有を行い、特別に支援が必要な児童に対する理解を深めるとともに、よりよい支援の在り方について全職員が共通認識をもち支援にあたるようにする。	B	②学校評議員、学校関係者評価委員による意見や評価を積極的に取り入れ、学校運営の改善を図る。地域関連行事については、新型コロナウイルス感染拡大状況に応じて内容を検討しつつ、これまで同様、地域関係者の協力を得ながら、地域・保護者、そして子どもたちにとって思い出深い取組となるよう、準備・実施を進めていく。	B
③全教育活動を通じて児童の道徳性を養うとともに、いじめの撲滅のため、いじめ対策委員会を随時開催し、未然防止と解決に努める。また、調布警察署や調布警察スクールサポーターと連携し情報収集を行い、問題行動の未然防止の取組を行う。	B			③学校ホームページは毎日更新することで、リアルタイムに教育活動の様子を伝えていくようにする。また、地域・保護者には学校ホームページの閲覧について機会を捉えて呼びかけていくとともに、必要な情報等についての意見交換をしながら内容の充実を図る。	A
(2) 成果（数値目標に対して）	評価	(2) 成果（数値目標に対して）	評価	(2) 成果（数値目標に対して）	評価
①学校評価アンケート「安全指導」「生活環境」の保護者 A+B 回答：91%、児童「学校が楽しい」「規範意識」「健康・安全」の項目の児童 A+B 回答：90%以上となった。職員が共通認識をもち、日々の生活では安心して学校生活を送れるよう安全指導を徹底するとともに、老朽化した遊具の撤去、校舎内カーブミラーの設置、校庭芝生や樹木の維持管理等、安全性を高めるための施設改善を図ってきた。引き続き、児童の安心・安全を最優先に考えながら教育活動を進めていく。	A	①校内委員会を月1回開催し、特別支援教育コーディネーターが中心となって外部機関と連携した支援の在り方について検討し、改善策を検討し、講じてきた。巡回心理士、スクールカウンセラーとは巡回及び勤務日毎に指導や支援のために有用となるフィードバックを受け、指導・支援に生かすことで児童理解、課題解決の一助とすることに努めた。	B	①学校評価アンケート「地域連携」の項目では保護者 A+B 回答：82%であり、前年度76%から大きく向上した。地域関係団体の皆様のお力添えにより、感染対策を講じながら実施できた取組があったことによるものと考え。今後とも、「地域とともに子どもを育てる」ために、地域関係の皆様にはお力添えをお願いしたい。また、「学校行事」保護者 A+B 回答：93%、「学校公開」保護者 A+B 回答：91%であった。授業公開については、感染防止対策のために中止となったり、平	B

自己評価

				日の開催に変更したりすることがあったが、3学期には土曜授業公開を実施することができた。次年度も感染状況等を踏まえつつ、学校生活の様子をご覧いただく機会を計画していく。		
	②全教育活動を通じて児童の道徳性を養うとともに、いじめの撲滅のため、いじめ対策委員会を随時開催し、未然防止・早期解決に努めてきた。今後も、危機意識を高めて児童の状況把握に努めるとともに、必要に応じて調布警察署や調布警察スクールサポーターと連携し情報収集を行い、問題行動の未然防止の取組を行う。	B	②週2回の職員打ち合わせを活用し、全教職員が情報共有を行い、特別に支援が必要な児童に対する理解を深めるとともに、よりよい支援の在り方について全職員が共通認識をもち支援にあたることができるようにしてきた。多様化する課題により適切に対応できるよう特別支援教育にかかわる専門性の向上のための研修機会等の確保が課題である。	B	②学校評価アンケート「情報発信」については保護者 A+B 回答：92%となった。今年度は、特に、学校ホームページの更新を増やし、「学校生活の様子」について配信してきた。また、安心・安全メールを活用し、必要に応じて迅速な情報提供に努めた。今後も取組を振り返り、改善・充実を図っていく。	A
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「日常に発生した様々な”ヒヤリハット”について教職員間で共有することが事故防止につながると考える。</li> <li>・休み時間等も児童とともに遊びながら見守りを行ったり、いじめに関する対策もしっかりなされたりしており、児童が安心して学校生活を送れる環境作りができていると感じる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係各所との情報共有や連携がとれており、一人一人のニーズに応じた支援のできる環境が整っていると感じている。</li> <li>・特に低学年においては、就学前に通っていた幼稚園や保育園等との連携と情報共有が有効と考える。就学支援シートだけではなく、就学後においても幼稚園などに直接ヒアリングすることも時に必要だと思ふ。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で久しく開催できなかった地域主体のイベント等が実施でき、参加率も高く、多くの児童が楽しいひと時を過ごすことができた。今後も二小を通じて、子どもたちと地域がつながれる機会を作り、地域で二小の子どもたちを見守っていききたい。学校・家庭・地域が連携し、子どもたちを育む行事の開催を継続していただきたいと思う。</li> <li>・「学校生活アンケート」の結果で、一番感じたことは「よくわからない」という回答が減った事だった。学校行事の再開、規制緩和による保護者の来校機会の増加が要因だと思ふ。今後も以前のように開かれた学校となることを期待する。</li> </ul>	

人材育成・組織運営	
自己評価	<p>○「チーム二小」～one for all, all for one～</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた対応や感染状況を踏まえた上での教育活動の在り方等について、共通理解を図りながら、子どもたちの成長につながるよう、「チーム二小」として全教職員一丸となり組織的に教育活動を進めていくよう努めてきた。</p> <p>○主幹教諭・主任教諭を中心に日常的・意図的な OJT をそれぞれ推進しながら、校内研究等を通して職員相互に研鑽を図った。主任教諭には、学校運営にかかわる明確な役割を一つ以上務め、責任感をもってその役割を果たすことができていた。</p> <p>○若手教員には経験年数や強みに応じた役割や教育実習担当や新規採用教員への指導・助言の機会を設定することで、組織貢献意欲や人材育成に対する一層の意識向上を図りたい。</p> <p>○ゆとりをもって児童と向き合える時間を確保するための働き方改革につながる取組の一層の推進については、引き続きの課題ととらえている。</p>
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム力を高めるには、教職員同士互いに認め合い、フォローし合う姿勢が不可欠である。そのためには、教職員一人一人が気持ちにゆとりをもって仕事ができる環境づくりが必要であり、そのために、働き方や環境について改善すべきところがないかを常に考えながら運営にあたっていたいただきたいと思う。</li> <li>・児童や保護者への対応等、教職員が一人で抱え込むことなく、縦と横での情報共有・連携をしっかりと図り、教職員にとっても働きやすくやりがいのある職場であってほしいと願う。そうあることで強い「チーム二小」となり、よりよい教育活動を進めてほしいと願っている。</li> </ul>

中期的な経営目標の達成状況
<p>① 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善と自ら学びに向かう児童の育成⇒言語活動の充実や ICT 機器の効果的な活用をさらに図り、子どもたち同士が学び合う授業づくり（対話的な学び・協働的な学び）を推進するとともに、児童が主体的に学び合いながら、楽しく、よくわかる授業となるよう、授業改善に向けて研鑽を深めていく必要がある。</p> <p>② 自己肯定感をもち、粘り強く取組む児童の育成⇒子どもたち一人ひとりが明確な目標をもち、努力を積み重ねるプロセスを大切にしながら達成感を味わい、子どもたちが行事を通して成長することができるよう、引き続き指導の工夫をしていく必要がある。</p> <p>③ 多様な価値観を認め合える児童の育成⇒本校の特色ある教育活動の一つである異学年交流「たてわり班活動」が思いやりの心を伝統的に育てる取組として、児童の姿にもその成果が表れている。一層の充実を図りたい。</p> <p>④ 自ら健康な生活を送ることができる児童の育成⇒校内研究（体育科）による取組等から、児童が運動の特性に触れる楽しさや喜びを味わう姿が見られ、その成果が少しずつ表れてきている。今後も、本校の特色である校庭芝生を有効に生かしながら、児童が主体的に運動に取り組むように工夫していくことで、運動の日常化につなげたい。</p> <p>⑤ 安全・安心な学校づくりの推進⇒職員が共通認識をもち、日々の生活では安心して学校生活を送れるよう安全指導を徹底するとともに、安全性を高めるための施設改善を図ってきた。引き続き、児童の安心・安全を最優先に考えながら教育活動を進めていく。</p> <p>⑥ 児童一人ひとりに応じたよりよい指導・支援のための特別支援教育の推進⇒多様化する課題により適切に組織敵対応できるように体制を整えていくとともに、研鑽の機会を設定していく。</p> <p>⑦ 地域の教材・教育力を生かした教育活動の充実と地域連携の推進⇒学校経営方針に示す「学校、保護者・地域住民などが相互に連携、協力しながら、教育活動を推進していく」に沿い、学校生活アンケートをはじめとする各種アンケート結果や各行事等・授業公開での感想等を通して、地域・保護者、そして子どもたちの思いや願いを受け止めるとともに、学校評議員会・学校関係者評価委員会での意見・評価を踏まえて、今後も改善に向けて努力を重ねていく。</p>
次年度の重点課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>◇全教育活動を通じた「自他尊重の精神の涵養」の一層の推進</li> <li>◇「豊かな心」を育むための、異学年交流「たてわり班活動」の一層の充実と「あいさつの励行」の推進</li> <li>◇主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善と主体的・協働的に学び合う児童の育成</li> <li>◇校内研究（体育科）と関連付けた児童が主体的に運動に親しむための体育授業等の充実と運動の日常化の推進</li> <li>◇安全・安心な学校づくりの推進</li> <li>◇個に応じた指導・支援の充実</li> <li>◇地域・保護者との連携の推進</li> </ul>